

平成 2 7 年 6 月 2 7 日現在

機関番号：3 2 6 7 7

研究種目：基盤研究(C) ( 一般 )

研究期間：2011 ~ 2014

課題番号：2 3 6 1 1 0 4 5

研究課題名 ( 和文 ) 使い続けるためのデザイン - 近代イギリスの家具とリサイクル文化

研究課題名 ( 英文 ) The Culture of Sustainability: Furniture Design and Repairs in Modern England

研究代表者

真保 晶子 ( SHIMBO, Akiko )

武蔵大学・人文学部・助教

研究者番号：5 0 5 7 8 4 7 4

交付決定額 ( 研究期間全体 ) : ( 直接経費 ) 2,400,000 円

研究成果の概要 ( 和文 ) : 本研究課題は18~19世紀イングランドにおける家具の修理とリサイクル文化に焦点を当てた。現地文書館で調査した様々な一次史料に基づき、多様な角度から上記課題を分析した。まず、当時刊行された修理と中古品に関わる幅広い分野の本、調度品の競売カタログ、家政手引書、自伝、日記などから、修理と中古に対する当時の人々の意識を探った。また、家具メーカーの経営文書から、家具の修理に関する日常的な実践の一端が明らかになった。さらに、イングランド南東部の文書館所蔵のマニュスクリプト ( 家族文書、地所史料など ) から、建物・調度品の修繕が定期的に行われていたこと、遺言書にも住宅を良い状態に保つという人々の意思が見られた。

研究成果の概要 ( 英文 ) : This research focuses on repairs and recycling of furniture in eighteenth- and nineteenth-century English material culture. This study is based on the following source materials: contemporary published books; furniture-makers' business records; and various types of manuscripts from local archives in south-east England. Referring to contemporary published books in a wide range of areas related to repairs and second-hand goods, sales catalogues of household goods, domestic manuals, published autobiographies and diaries, the study first explores contemporary notions of 'repairs' and 'second-hand'. In addition, furniture-makers' business records suggest everyday practices of repairs of furniture, including frequency. Various sources of manuscripts from local archives in south-east England, such as family records, estate papers and wills, also indicate regular maintenance of houses and furniture and people's intention to keep them in good repair.

研究分野：西洋史

キーワード：デザイン 近代イギリス リサイクル 消費文化 家具 修理

## 1. 研究開始当初の背景

21 世紀の現在、最も耐久かつリサイクルに適う消費財であるはずの家具は、メーカー・小売店の安さの競い合いの結果、もはや使い捨ての商品へ加わる状況となっている。いわゆる「産業革命」といわれる工業化の進行した時期、18 世紀後半から 19 世紀前半のイギリスでは、生産者と消費者が、住宅の一部として家具を長く使い続けることを前提にデザインをとらえていた。これらの過去の実例をもとに、現代社会におけるリサイクルとデザインを見る新たな視点を提示することが、本研究開始当初の背景である。

## 2. 研究の目的

本研究は、近年の学際・総合研究としてのインテリア史研究の流れに位置づけながらも、今まで扱われてこなかった家具の「修理」と「リサイクル」の歴史に焦点を当てる。18 世紀から 19 世紀の刊行一次史料、家具メーカーの経営文書、そして家族文書や地所史料など地方文書館所蔵のマニュスクリプトから、家具の修理・リサイクルに関わる事例を分析する。これらをもとに、工業化の時期にあたる 18 世紀後半から 19 世紀前半のイギリスで、長期的に使い続けられるものというデザインの概念が、生産者・消費者の中に存在していた事例を示すことが本研究の目的である。

## 3. 研究の方法

### (1) 関連文献の整理と理論研究

18 世紀から 19 世紀イギリスの中古市場・リサイクル文化について、消費文化史、経済史、デザイン史、服飾史、インテリアと家具史の領域における関連研究の分類と分析を行った。また現代のデザイン学と消費文化論で中古市場・リサイクルに関連したものも、広く理論研究の参考にした。

### (2) 現地一次史料調査

次項に詳細を示すとおり、ロンドンの文書館・図書館において、刊行一次史料およびマニュスクリプト史料の閲覧・研究を行った。また、イングランド南部の地方文書館においてマニュスクリプト史料の閲覧・研究を行った。

## 4. 研究成果

### (1) 研究の主な成果

刊行一次史料をもとにした「修理」・「中古」に関する当時の人々の意識

ブリティッシュ・ライブラリー貴重書室にて刊行一次史料を研究した。18 世紀後半から 19 世紀前半の関連刊行文献を幅広い分野から閲覧・研究し、また、一次資料データベースも参考にしながら、刊行された日記・手紙、および自伝なども閲覧・調査し、「修理」・「中古」に関する当時の人々の意識を探った。

また、同館同室およびナショナル・アート・ライブラリー（ヴィクトリア&アルバート・ミュージアム）において、18 世紀後半から 19 世紀前半の調度品の競売カタログを閲覧・研究した。これらの史料から、中流の上層クラスの人々の死後、競売にかけられた調度品のリスト、および家の中でも所持者の死後、屋根裏部屋に残された物のリストに注目し、査定者の目から見た「古いもの」や「質の良い物」がどのような意味合いを持っているか、またそれは当時の人々の意識をどれだけ反映しているかを分析した。競売品を残した者の氏名が明記されているカタログ 11 件に絞ってさらに詳細に調査した。

さらに、18 世紀後半から 19 世紀前半に刊行された家政手引書を閲覧・研究した。これらは中流階級の読者に向けた物が中心であるが、労働者階級向けの物もあり、住宅と調度品に関わる幅広い層の人々の意識を知る上で、有意義な資料である。

刊行資料の中から、家具の修理に関する本（1920 年発行）も閲覧した。だが、これは

原著者 C.テイラーの生没年( 1756 - 1823 年 ) から考えると、18 世紀後半から 19 世紀前半の内容を受け継いで編集されているのではないかと推測できる。その他、建造物修理についての本( 1898 年 ) も参考に見た。以上の詳細についてはこれから成果を発表する。

#### 家具メーカーの史料から探る修理の実践

ウェストミンスター・シティー・オブ・アーカイヴズにおいて、家具メーカー、ギロウ社の見積もりスケッチブック( 1784 - 1855 年 ) のうち、いくつかサンプル年を選び出し、修理の状況を調査した。1784 年ではかなりの数( 152 ページ中 26 件 ) が確認された。また、個別例では 12 脚の椅子の修理や 21 件の小さな種々の修理を注文する例が見られることから、ある程度規則的に修理をしていたのではないかという推測ができる。一方、同資料の 1795 年、1804 年、1814 年、1824 年もサンプル年として調査したが、これらにはほとんど修理に関する見積もりの記録が残されていなかった。同社の注文集( 1758 - 1762 年、1778 - 1781 年、1800 年、1822 - 1825 年 ) のうち、1781 年と 1824 年をサンプル年として調査したが、前者には記載がみられず、後者は 11 件であった。さらに上記注文集に注文が記載されている顧客がいつその品を購入したかを見積もりスケッチブック上にたどろうとしたが、不明に終わった。また、注文集から 1800 年をサンプルに、修理に関する注文を分析しようとしたが、記載が見られなかった。修理に関する注文は、少なくともこの年は通常の注文集にないことから、別に収められていたようだ。また、同社の書簡集( 1769 - 97 年、1800 - 1803 年、1829 - 1842 年 ) から 1770 年、1784 年、1791 年、1802 年、1829 年、1840 年をサンプル年として調査し、同社から顧客へ送付された修理に関する手紙をいくつかあらたに発見し

た。

#### マニュスクリプト

ナショナル・アート・ライブラリーで、マニュスクリプト資料をいくつか閲覧し、修理に関する手紙を詳細に調査した。ロンドン・メトロポリタン・アーカイヴズでは、タイトルやキーワードから探し出した、修理に関わるとされる手紙などのマニュスクリプト資料 8 件を調査したが、あまり有意義な内容の物は見つからなかった。

一方、以下の地方文書館、West Sussex Record Office、Surrey History Centre、Bedfordshire and Luton Archives and Records Service、Kent History & Library Centre において、家族文書史料、地所史料、遺言書、その他マニュスクリプトの調査を行い、大きな成果を得た。各地の家族文書にも表れるように、地方の大邸宅では定期的な建物・調度品の修繕が行われていた。また職人やヨーマンなど様々な人々の遺言書にも住宅を良い状態に保つよう言い残されている。当時の人々の保存する意識についても、詳細を近く発表する。

#### ( 2 ) 得られた成果の国内外における位置づけとインパクト

##### インテリアデザイン史

イギリスにおいて、家具に関する歴史研究は、伝統的美術史の手法で、作品としての価値、様式・技術・材質などの変遷を説明することが主であった。2000 年代に入り、アマンダ・ヴィッカリー( ジェンダーと消費文化史・ロンドン大学ロイヤルホロウェイ ) とジェレミー・エインズレイ( デザイン史・ロイヤル・カレッジ・オブ・アート ) らのプロジェクト The AHRC Centre for the Study of the Domestic Interior により、学際・総合的インテリア史研究が盛んになった。これらの研究では、インテリアの選択、使われ方( 住まわれ

方) 住居空間におけるジェンダーの違いの反映、メディアにおける表象など、様々な領域から多様なアプローチが試みられている。本研究課題は、これらの新しい学際・総合研究としてのインテリア史研究の流れに位置づけられるが、今まで扱われてこなかった家具の「修理」と「リサイクル」に焦点を当てたことで新しい視点を提示できる。

#### 社会史・文化史・都市史・建築史

また、本研究課題は、世界の中でいち早く工業化を遂げつつあった 18 世紀後半から 19 世紀前半のイギリス(特にロンドンとイングランド南部)で、人々の間に住居や住居空間を構成する家具を保存する意識がどのように根付いていたかを探る上で、従来にはない新しい視点を提示できる。イギリス近代史においては都市史・建築史・デザイン史・文化史・社会史を横断する題材であると位置付けられる。また古い住居・物を大事にし、使い続ける文化の一例は現代日本社会に生きる市民にも関心を持っていただけるのではないかと考える。

#### (3) 今後の展望

家具調度品の修理と中古品および住宅の修繕に関する本研究課題をもとに、それ以外の建造物の修理・保存への住民の意識についても研究範囲を発展拡大させ、成果を単行本としてまとめたい。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 2 件)

真保 晶子、図像史料のコンテクストを探る - 18 - 19 世紀イングランドのトレードカード(業務紹介広告)とパターンブック(デザイン見本) 史潮、査読無、第 75 号、2014、22 - 46

真保 晶子、V.パパネック『生きのびるためのデザイン』(1971 年)再考、早稲田社会科学総合研究、査読無、第 12 巻 第 3 号、2012、

59-74

〔学会発表〕(計 件)

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕  
出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等  
真保 晶子、フォーラム、比較都市史研究、第 34 巻第 1 号、2015、1

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

真保 晶子 (SHIMBO, Akiko)

武蔵大学・人文学部・助教

研究者番号：5 0 5 7 8 4 7 4

##### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

##### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：